

# かわら版



#### KAWARA BAN

# 巻頭言 「キャンプの力を信じ続ける」



北海道教育大学 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 准教授 山田亮

2019年10月より、本協会の指導者養成担当の常任理事を務めています、山田亮と申します。普段は、北海道教育大学岩見沢校の教員として、キャンプ実習や野外教育の授業を行い、教育・研究活動を行なっています。コロナ禍になって半年以上が経ちますが、現在も大学では宿泊を伴った授業や活動はおろか、対面での授業の実施にかなりの制限がありますので、私自身、学生とともにフィールドに出て活動をする機会を失っている状況です。もしかしたら、みなさんの現場とは少し状況が違うか

もしれません。

そんな中、今年の夏、実施できないキャンプ実習の代替措置として、5月から大学で行ってきたオンライン授業の手法をヒントに、キャンプや自然体験に関する動画を15回分(1回約20分間)を作成し、それをある一定期間に配信し、学生は指定順に動画を視聴し、1回の視聴ごとに、ふりかえりのレポートとアンケートに回答するというかたちで授業を実施しました。その内容は、基本的なキャンピングスキル(テント設営、野外炊事、衛生管理など)を見本をみせながら解説したり、沢登りやルアーフィッシングを行っている様子を見せたり、森林ガイドウォークをして自然環境について解説したり、自然と親しむことを目的としたゲームを紹介したり、いろいろと制限される状況の中で、できる限りの動画コンテンツを計画しました。

キャンプには、本来、人と人との関係を考える機会になるという意義があり、指導者としては、人と人とが「密になる」ための教育活動としてキャンプを行なってきましたが、コロナ禍になり、それが思うようにできなくなりました。また、今回計画した動画を視聴するということだけでは、知識や技術を学習することはできても、キャンプの醍醐味である直接体験して学び、非認知的能力を伸ばしていくということは難しくなると考えました。

そこでいろいろと検討した結果、動画コンテンツを視聴して、その内容がいかに自分の普段の意識や行動に関わってくるかをふりかえったり、ひとりで実施可能なものは、実践してその成果を写真や動画にしてみたり、少しでも自然の魅力を感じてもらえるような内容にしようと考えました。また、森林セラピーの研究において、自然環境の様子を撮影した動画を視聴すると、自然への理解が深まったり、リラックス効果が得られるなどの効果が期待できるという結果も、今回の計画の実行を後押ししました。

私がキャンプの仕事を始めたきっかけは、仲間との集団生活でたくさんの刺激を受け、自然の中でいろいろなことに挑戦や工夫をして、何物にも変え難い経験をしてきたからだったと思います。しかしながら、このコロナ禍では、なかなかうまくそれを実現することができません。この現実を受け止めながら、キャンプが持つ本来の魅力をどのように具現化していくか、模索する日々は続きそうですが、キャンプの力を信じ続けることは間違いないことだと思っています。

## 2020年度 第1回理事会開催

当初の年間予定では、3月に予算理事会、6月に決算理事会が予定されていましたが、新型コロナウィルス感染症の発生と拡大に伴い、開催できずにおりました。調整を続けた結果、8月26日(水)に札幌エルプラザにて2020年度第1回理事会を開催することができました。今回の理事会は変則的な開催となったため、過年度の事業報告・収支決算と新年度の事業計画・収支予算について、同時に協議することとなりました。主な内容を以下に報告致します。

## 【2019年度の主な事業トピック】

例年実施しているキャンプインストラクター養成講習会は、札幌会場に加え新たに国立大雪青少年交流の家との共催で10月に開催することができ、11名の参加がありました。また、並行して地域指導者のスキルアップセミナーとしても実施することができました。

8月には、日本キャンプ協会が初めて取り組んだ文部科学省認定の「教員免許状更新講習会」を北海道キャンプ協会で受け入れ、札幌市滝野自然学園を会場に実施しました。道内だけでなく本州からの参加者もあり、あわせて||名が参加しました。これらの事業は今後も継続して行われる予定です。

#### 【2020年度事業計画のポイント】

これまでの北海道キャンプ協会の運営体制は、養成事業部、ユース養成部、広報部、啓発事業部の4部構成で、これに事務局を加えて会務を執行していましたが、昨年度で日本キャンプ協会のBUC事業が終了したことに伴って、主にBUCを担当していた啓発事業部を発展的に解消し、養成事業部に統合することとなりました。新年度の各部の主な事業計画は以下の通りです。

## 1)養成•啓発事業部

- ①例年計画されていた協会主催キャンプインストラクター養成講習会、また、隔年実施のキャンプディレクター2級養成講習会(2020年該当年)はいずれも新型コロナウィルス感染症拡大に伴い中止することとしました。国立大雪青少年交流の家との共催事業であるキャンプインストラクター養成講習会は10月に実施します。
- ②啓発事業については、オンラインを活用した形での可能性を探っていきます。

#### 2)ユース養成部

- ①新型コロナウィルス感染状況に配慮し、オンラインを活用した指導者交流会を検討します。
- ②北海道キャンプ協会創立30周年となる2022年度に向けて、記念事業の素案作りの準備を進めます。

#### 3) 広報部

- ①北海道キャンプ協会の総合案内としてリーフレットを作成します。
- ②広報誌かわら版を秋・冬2回発行します。
- ③インターネットを活用したコミュニケーションの強化と充実に努めます。

#### 4)事務局

- ①2019年に移転した事務局の拡充を目指して、通信技術を活用したシステム・ツールの導入を推進します。
- ②コロナ禍における会員への情報提供など、効果的なアプローチについて再検討し、会員 サービスの拡充を図ります。
- ③創立30周年に向け、協会の未来ビジョンの策定を進めます。

## 2020年度収支予算概要

各部事業計画を踏まえて積算された2020年度の収支予算は以下の通りです。

収入の部

科目	2019決算	2020予算	摘要
入会金・会費収入	414,000	460,000	入会金・支部年会費
事業収入	544,040	410,000	講習会参加料・講師派遣
補助金収入	138,300	100,000	日本キャンプ協会旅費補助
雑収入	8	1,200	利息等
当期収入合計	1,096,348	971,200	
前期繰越金	1,511,350	1,165,223	
収入合計	2,607,698	2,136,423	

支出の部

支出合計	2,607,698	2,136,423	
時期繰越金	1,165,223	1,165,223	
当期支出合計	1,442,475	971,200	
管理費	1,021,801	688,200	事務局維持費・印刷製本費・通信運搬費・旅費交通費等
事業費	420,674	283,000	賃借料・通信運搬費・印刷製本費等
科目	2019決算	2020予算	摘要

※その他「会員活動活性化基金」より、会員活動活性化事業として30万円を予算化しています。 キャンプミーティングや他都府県の講習会等へのユース派遣のための旅費等に充当します。

# 北海道キャンプ協会を支える人々

2019-20年度北海道キャンプ協会役員は以下の方々です。北海道キャンプ協会は、1992年の設立から、全道の様々な関係団体の人材によって支えられているボランタリーな協会

です。

役職	氏名	所属
顧問	霜觸 寛	(財)札幌市体育協会
顧問	相馬 宏哉	(特)ネイチャープログラムデザイン
会長	粥川 道子	北翔大学
副会長	秋葉 聡志	(公財)北海道YMCA
副会長	工藤 正司	(財)おたる自然の村公社
常任理事	下川原 清貴	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会
常任理事	山田 亮	北海道教育大学岩見沢校
常任理事	二杉 寿志	(財)おたる自然の村公社
常任理事	山田 憲克	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会
理事	諌山 邦子	北海道教育大学釧路校
理事	大川 泰尚	(特)ネイチャープログラムデザイン
理事	小野 俊英	八雲小学校
理事	片岡 裕之	(社)あそびの家
理事	佐藤 英樹	国立日高青少年自然の家
理事	安原 政志	(特) 自然教育促進会
監事	志賀 和行	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会
監事	米田 一邦	元三井住友信託銀行札幌中央支店

# 創立30周年記念事業について

北海道キャンプ協会は、2022年度に創立30周年を迎えます。この記念すべき年をどのように迎えるのか、理事会でも議論を始めています。多くの会員との繋がりの中で広く意見を交わし、記念事業を形づくっていきたいと考えています。例えば、現在秋に行っている「キャンプフェスタ」と合同で記念式典も野外で行う・・・、札幌市民を巻き込んで参画型にできないか・・・、などなど、アイデアを募集しています。今後いろいろなところでディスカッションの機会を作って参りますので、ぜひ協会員の皆様の参画をお願い致します。

## 活動レポート「YMCA自然が子どもを元気にするプロジェクト」

北海道YMCA 木田貴浩



今年度、北海道YMCAでは、文部科学省「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」の委託事業を実施しました。コロナ禍の中で、子どもたちの健全な成長のための活動が失われている現状があります。空や木々の鮮やかさ、清流の冷たさ、風の音や鳥のさえずり、ファイヤーの煙のにおい、共に作ったカレーの味。五感で感じる生の体験は決してオンラインでは得られません。その中で育まれる友情、協調性、相互理解、信頼や尊敬心、

興味や関心、他者や環境への思いやりの心は、子どもたちの健全な成長には必要不可欠です。

北海道YMCAでは感染予防対策を徹底して行い、新しい生活様式に沿ったガイドラインを策定しプログラムを構築した上で、長い歴史の中で培った知識と経験の中で自然体験活動を再開いたしました。

子どもたちの夏休みに合わせて8月8日~14日の間で4つのキャンプを実施しました。感染症対策により大きな声で歌を歌えなかったり、いつものキャンプとは少し違うこともありましたが、自然の中で元気に過ごすことができました。

Stay Homeで家の中にいる時間が多かった子どもたちにとっては、広い自然の中で過ごすことでリフレッシュできたのではないかと思います。

以下は、今回のキャンプに参加した小学4年生の子どもが書いたキャンプの感想です。



「やっぱりキャンプがしたい。自然のなかで、お友だちと色々なことで楽しみたい。いつもは沢山歌うのに歌ったり出来なかったけれど、それでも一緒に食べたり寝たり、遊んだりした事が楽しかった。お母さん、お父さん達と行くキャンプも楽しいけれど、ワクワク、ドキドキするのは一人で参加するキャンプです。学校がお休みの時は、ずっとお兄ちゃんと2人だった。学校が始まっても勝手に動いちゃ行けなかったり、前のようにお友達と自由に遊べなかった

りした。お友達と自由に遊べたり、話したり出来て、ウキウキ、ワクワク、ドキドキしました。」

私たち指導者はリスクを考えるとやめてしまうことを選択しがちですが、どのように工夫したらできるのかを考える必要があると感じました。

## メンバー募集!

北海道キャンプ協会には、次世代若手指導者団体である「えぞっぷ」という組織があります。「えぞっぷ」では様々な活動を計画し、北海道におけるキャンプ活動の推進を図っています。若手ならではのエネルギッシュな企画や新たな視点での活動が実施されています。ぜひ皆さんも「えぞっぷ」に入り一緒に活動しませんか?興味のある方は北海道キャンプ協会事務局までご一報下さい。

【活動実績】

北海道キャンプフェスタ、指導者交流会、日本キャンプミーティングでの発表、活動報告会など

## 事務局移転

前回お知らせした通り2019年11月1日より、北海道キャンプ協会事務局を札幌市郊外のNPO法人ネイチャープログラムデザイン内へ移転いたしました。問い合わせなどは下記までお願いいたします。

# 北海道キャンプ協会

〒005-0862 北海道札幌市南区滝野106番地 NPO法人ネイチャープログラムデザイン内

TEL&FAX 011-596-9170 メール hokkaido@camping.or.jp URL https://www.hokkaidocamp.com/wp/



発行:北海道キャンプ協会広報部 編集:坂谷充